

人口減下での教育改革と学生募集5つのポイント

	これまで	これから	関連記事
教育改革	<input type="checkbox"/> 周囲の大学の取り組みにならう <input type="checkbox"/> 政府のビジョンや施策、認証評価への対応	<input type="checkbox"/> 人材ニーズ(社会や産業界等)や市場の見込み、自学のポジション、そして建学の精神に照らし合わせて判断	P.6～ P.16～ P.20～ P.22～ P.28～
入試	<input type="checkbox"/> 志願者を大量に集め、一律の学力テストでふるい落とす「選抜」型 <input type="checkbox"/> 入試広報部中心の施策で、受験生からの注目を集める	<input type="checkbox"/> 接触段階から高校生と関係を深め、自学の教育を理解したうえで学ぶ意欲を高めて受験するしぐみの「接続」型 <input type="checkbox"/> 入試と教務が連携し、自学の学びのメッセージを込めた入試を行う	
募集活動	<input type="checkbox"/> いかに数を集めるかが成果指標	<input type="checkbox"/> いかに志望度の高い受験生の出願につながったかが指標	P.4～ P.20～ P.24～ P.28～
高校との関係	<input type="checkbox"/> 今の高校事情をよく知らないまま、高大接続事業や高校訪問、進学相談会を実施し、自学を宣伝	<input type="checkbox"/> 今の高校で何が起きているのかを知り、本音でコミュニケーションを取り、お互いの課題や魅力を伝え合う	
市場	<input type="checkbox"/> 計画ありきの市場調査 <input type="checkbox"/> 競争が激しい市場でも、確たる勝算もないまま参入	<input type="checkbox"/> 市場調査をしっかり行い、結果により適宜計画を見直す <input type="checkbox"/> 場合によっては自ら市場づくりに取り組む	P.6～ P.10～ P.12～ P.24～



教育改革と学生募集

新学部学科設置、新しいカリキュラム、特色あるプログラムの開発など、今、新しい時代、社会に向けた教育改革が花盛りだが、教育改革には大きな投資が必要だ。18歳人口減により募集が悪化する大学が増えつつある今、教育改革と学生募集の関係について考えてみた。



人口減下における教育改革
—その教育で何人の学生が来るのか？

国策として、理工農系の成長分野への学部再編を図る文科省の「成長分野けん引事業」。このうち、支援1は、2032年度まで、予算ベースで250件もの学部転換をめざす、息の長い事業だ。初回は67件もの申請があり、全て選定された。しかし、学生募集の面から見ると、成長分野とはいえ、高校生の理系志望者は3割程度にとどまる。現状では国立大の定員の規模が大きく、入試も実質倍率1倍台という状況だ。私立大学が理系学部学科を新設したからと言って、それだけで数多くの受験生が志願する状況とは言いにくい。

大学は今、日本が抱える課題解決に資する人材育成機関としての役割が求められる一方で、人口減下でもその教育を提供し続けるための、しっかりとした経営計画と募集戦略が不可欠となっている。もはや学部学科を新しくつくったり、教育を変えただけで、学生が来る時代ではない。市場が縮小する中、新たな市場づくりから始めるぐらいの覚悟とマーケティングが必要だ。

経営、教務、入試広報、高大接続がうまく連携した教育改革とは何か。文科政策や産業界の動向、試行錯誤中の大学、入試部長の視点、そして、積極的に教育改革に取り組む、生徒募集を好転させている高校の話からそのヒントを探る。

文/編集部 写真提供/千葉商科大学